

神戸医療福祉専門学校三田校 学校関係者評価委員会 会議資料

2019年度自己点検自己評価(平成31年4月1日～令和2年3月31日)による

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
1 教育理念・目的・育人材像	1-1-1 理念・目的・育人材像は定められているか	4		教育理念・目的・養成人材像は、明文化、文章化されており事業計画に教育を取りまく環境変化等をぐたいかしている。会議や研修等においても理念等の徹底をしている。 常に業界・三田市・住民とのコミュニケーションを図り、産学公民共同での教育を心掛けている。地域・業界が求める人材像を明確にするとともに、教育目標・教育課程・授業計画策定活用している。 事業計画では、「地域との連携」「業界との連携」を掲げ特徴ある教育プログラムを構築し、変化する社会に対応するために、中・長期の事業計画を策定し毎年見直しをしている。今後は学生の質的变化に対応するためさらなる、人間教育・社会人教育・医療人教育に取り組んでまいります。	職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、3つの建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)の実践、4つの信頼(学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼)を得られるように学校運営する中で、各業界のニーズ、に即した人材育成を行っている。 『キャリア教育』についても、今までの人間教育を更に発展させるべく、教職員に研修の機会を設け、学生それぞれが、『キャリア設計』を実現できるよう取り組んでいる。 業界の将来的展望に伴う、職域拡大等への対応できる人材の育成に取り組む。	3.83		●人材育成において様々な工夫が図られていると思う(正木) ●十分である(川端) ●きちんと教育理念・目的・育人材像が設定され、毎年このことながら感心いたします。それらがしっかりと提示されているから、教職員の皆様も目標達成に向けて邁進することができておられるのでしょうか(川崎) ●“職業人教育を通して社会に貢献する”というミッション。一年時に会える学生さんの姿と白衣を着慣れた姿で喜び対応して下さる様子に職業人教育を目的のあたりにします(田中)
	1-1-2 育人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか							
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか							
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか							
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4		法人としては、事業計画・運営方針を定めることを重要視している。その意識で毎年、業界のニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努め、明文化された事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての教職員が理解した上で各業務に取り組んでいる。	事業計画の構成①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)②運営方針(中期的に組織として目指す方針)③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現する為の単年度の方針)④定量目標(入学率・教育成果(中退防止・国家試験合格数・就職率等)⑤定性目標(人材育成や組織のあり方等単年度目標)⑥実行計画(その方針を実現させる為の具体的な計画)⑦組織図⑧職務分掌⑨部署ごとの計画・スケジュール⑩意思決定システム⑪収支予算書(5ヵ年)	3.83		●学校教育に向け適切に運営なされています(正木) ●十分である(川端) ●神戸滋慶学園として、意思決定システムや勤怠管理システム、PDCAサイクルのチェックなど有効に活用されているうえで、教職員の方々が更なるスキルアップをめざそうとされているのが素晴らしいですね(川崎) ●組織全体として1人ひとりを把握した取組と目的に向けて細部にわたり、徹底した運営を実践されています(田中)
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4		計画を具体化していくためにはその計画が構成メンバーに周知され、理解されているかが重要なポイントとなるので、教職員研修、会議(運営会議・学科会議・各課会議等)日常会話を通じて、全教職員が学校運営に関わる環境作りを目指している。このことが、学校・学科の教育成果に繋がると考えている。	組織的に計画を遂行し、進捗状況を把握し、逐次見直しを行っている。 また各学科・各セクションごとの事業計画を作成し、事業計画発表会を実施している。			
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4		意思決定システムは確立されているが、さらに教職員がそれぞれスキルアップを図り、意思決定できる様底上げをしていきたい。 勤怠管理システムの導入により、職員の労働状態の管理に努めている 人事・給与に関する制度も就業規則に明示されている。	理念・原理原則に沿った意思決定ができるよう、研修を実施している。			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか							
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか							
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4		問題解決サイクル(問題発見⇒問題分析+仮説立案⇒対策立案⇒実行⇒検証)を回していることが意思決定プロセスを効果的に活用できているため学校運営が円滑に進んでいるが、個人レベルでの今後更なるスキルアップが必要である。	目標到達の運営指標を定め、会議内での運営数字チェックを定例化しているので数字からの問題発見が可能である。			
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4		学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の一元管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。しかし、大切なのは、学生一人ひとりの情報(入学前、在籍中、卒業)を一元管理することにより、学生への様々な支援(学費相談、就職支援等)の際に、その情報を活かし、適切な助言をし、業界就職への内定獲得や資格合格に結びつけている。 学生及び職員のリスク管理のシステムを構築しを目指している。	今後は学内のシステムによる業務の効率化だけではなくインターネットを利用した学生や卒業生との双方向サービスの充実が重要となる。就職情報の共有やサポート、国家試験対策など効果的、効率的なサポートシステムの構築を目指している。 (出欠管理システム・就職情報・国家試験対策webシステム)				

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	業界の求める人材育成のため、到達目標を明確にし、教育をフローで考え、専門職業教育とキャリア教育を行っている。	「職業人教育を通して社会に貢献していくこと」をミッションに、業界の情報・連携を非常勤講師依頼、臨床実習等とおして行っている。また、資格取得を目指す学科に於ては学園グループ内の組織である「国家試験対策センター」の指導の下、担当教員の研修に留まらず、取得の意義や取得指導などが計画的に行われる支援体制を整備している。	3.83			●学習目標を明確に示すことにより、学生の学びを進められています(正木) ●業界では即戦力の人材を求めていると所が多く、目標を明確にされているところはいいと考えます(川端) ●到達目標を当初に明確にされることは、“ぶれない”につながる重要なことだと同感いたします(田中)
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか		入学後のオリエンテーションにおいて資格取得の必要性を説明している。教科科目ごとに到達目標を明確化するために、シラバスを作成し学生に学期はじめに配布し周知徹底している。	専任教員・非常勤教員ともシラバス、及び講義内容の検討を踏まえ絶えずコミュニケーションが取れる体制をしている。アクティブラーニング、ICTなど、より質の高い教授方法、カリキュラムの連動性を行っている。				
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	毎年度、各学科の事業計画の中で、教育目標や業界が求める人材像の見直しと確認を行っている。	それぞれの学科において、常に専任教員・非常勤教員と教育到達レベルを明確にし、その教育到達レベルを達成させ、その度合いを評価するための科目、イベント等の計画とその確認を実施している。	3.83			●学生の、そして社会の状況に応じた対策を講じられています(正木) ●学生のレベルが個々で大きく違ってくるので、各業界からの専門講師の指導によりレベルの向上を図ってほしいです(川端) ●社会の変化、業界のニーズを捉えながら、対人援助職としての資質向上を目指すことは、入学してくる生徒によって、なかなか課題もあろうかと思えます。しかし、今後とも生徒一人一人の適性と可能性を見据えつつ、教育活動を継続してください(川崎) ●専門職業教育とキャリア教育の実践の上に、授業内容を評価検討し、フィードバックできる環境を準備されていることは、安心感につながると思えます(田中)
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか		業界ニーズに基づいた人材育成を行うため、常に業界の変化に対応するような情報共有を行っている。	各業界からの専門職講師指導を中心に、臨床指導者会議・臨床実習訪問・卒後研修・講師会議・就職説明会などを通じて、タイムリーな情報の共有を行っている。				
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか		対人援助職としての技術、知識及び人間性を高めるため、早期年次からの見学実習や、学外実習へ向けての患者モデルによる学内実習など多彩な実践形式の講義を実施。「専門職業教育」と「キャリア教育」を実践している。	働くための知識技術と社会で生きていくための人間力を踏まえたキャリア教育の充実が求められる。入学前から卒業後に至るまで、フローでのキャリア教育構築を目指す。				
	3-9-4 授業評価を実施しているか		オンライン授業の導入等において、講義内容の共有化、講義に対するアンケート等がタイムリーに行えるようになった。	内容の緻密な検討を行い、より質の高い授業展開が出来る評価内容を検討し常に講師との連携を深めフィードバックできる環境に持っていけた。				
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価や単位認定の明確な規定が学則や内規により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。これまで問題なく運用されている。進級判定会議及び卒業判定会議を開き、議事録も記載保存している。	履修規定は各学期の開始時に、新入生・在校生オリエンテーションで学生に周知している。	3.83			●社会貢献事業を行うことにより、他者からの目を考えて行動、学習が出来ると思えます(正木) ●研究発表を通じて、学生の勉強に対しての意欲が期待できる(川端) ●基準を明確化されていることは、学習支援につながります(田中)
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	年に一度、卒業研究発表会、卒業制作展示会、選手権の参加等を行っている。	特に地域性の高い貢献事業を中心に行う(介護予防・三田市内事業)				
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	資格取得のサポート体制としては平常授業のみならず国家試験対策講座を実施し、自宅学習支援や国家試験対策問題を活用できる環境を整えている。また学力不足の学生に対しては個別面談から補講まで様々な取り組みを実施している。	滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、国家試験対策センターの集約のもと、全国のグループ校が持つノウハウを共有し国家試験対策を講じている。また、国家試験対策研修を行うことで担当する教員のスキルアップに努めている。	3.67			●専門学校の本分である資格取得に向けた取り組みがなされている(正木) ●資格だけが目標ではありませんが、取得することでその後の就職に大いに関係するので、教育活動においての重要事項であると考えます(川端) ●昨年度の合格率が低かったが、今年度も直してあり、今後とも高い合格率を維持できる体制をつくってほしいと思えます(中村)
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか		定期的に模擬試験を実施し、成績のデータ化、蓄積による分析結果に基づいた受験対策の実施。学生の到達度に応じて授業外での補習などの個別対応の実施。e-learningを活用した学習環境の整備。	全員合格を目指す為に、国家試験対策委員会等学科を越えた方法論の共有化を行っている。「専門職業教育」と「キャリア教育」フローで行う教育の構築を目指す。不合格者対応としても組織全体でシステム的に行っている。				
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	学科の到達目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであり、また、同時に教員要件を満たしている事が採用条件である。講師は学園の方針、養成したい学生像を理解し、情報の共有や問題解決につなげている。	講義を行う者は、その業界の現状に則した内容を教授できる事を大切にしている。現在実技科目の外部講師は、臨床現場で活躍されている人である。	4			●そこで学んだ先輩の声ほど頼りになるものは無い。スケールメリットを活かした教育がなされている(正木) ●十分である(川端) ●他学科の情報の共有や外部講師の指導が得られること、教師の先生方が専門性の向上に取り組まれている事がよくわかりました(田中)
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか		それぞれの教員は、専門の業界団体、学会に加入しており、それらの主催する学術大会、セミナー等への参加を奨励している。また、教育者としての専門性の向上においては、上記のFD活動は基より、学園グループ、神戸滋慶学園内での様々なレベルでの研修会を実施している。	他学科の情報を共有することにより、学科横断的な知識を得、連携教育に生かしていくことを目標とする。				
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	各学科会議を中心に常に教員間の情報の共有化を図っている。		卒業生の教員体制を強化していき、三田校マインドの伝承を行っていきたい。					

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3		開校以来、それぞれの学科の専門領域の就職・内定100%のために就職支援・指導を徹底し教職員一丸となって取り組んでいる。組織としてキャリアセンターを設置し、教務との連携をはかり、業界の動向などを把握し、求人獲得、学生の内定を勝ち取るためのシステムを構築している。	卒業年次を担当する教員が、早期に学生一人ひとりの進路を把握するための面談を実施している。就職率の向上には、外部施設での実習やインターンシップが有効と考え実施している。	3.67		●常に何のために学んでいるのか、目的を重ね重ね確認することは大切(正木) ●今年については、コロナの影響があるため十分なフォローが必要と考える(川端) ●外部施設での実習やインターンシップが有効とされている事で、私ども施設が役立てば嬉しいです(田中)
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3		国家試験に対しては常に合格率100%を目標としている。免許取得に対する必要性を入学後のオリエンテーションで説明している。	滋慶学園グループ校の同分野で構成される教育部会を設置し、資格試験100%合格のための仕組み作りにも力を注いでいる。また、国家試験対策センターを中心に、次年度への更なる合格率向上を目標として、毎年国家試験受験対策に関する総括を実施している。	3.83		●十分である(川端) ●早くに目標が立てられる仕組みがある事で、力が発揮できると思う。組織力の強さを感じます(田中)
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3		卒業生の活躍は就職先からの評価や役職への登用が増えてきていること、実習指導の出来る卒業生の増加などから評価できると考える。今後、卒業生のみならず在校生においてもさらなる活躍が期待できる場を作り、広げていく取り組みが必要である。	常に、各学科の業界の方々と連携を図り、業界の求める人材育成に努めている。卒業生に対し同窓会活動として、卒後研修会を実施している。	3.67		●学生にとって自分たちの先輩の活躍は励みとなる(正木) ●ミッションをベースとした考えのもと、業界との連携、研修会の実施も素晴らしい(田中)
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4		学生支援の中でも就職支援に関しては就職率からも成功している部分と思われる。今後は面接指導の際に業界からの意見(求められる人材像)を今以上に反映できるような方策を検討したい。	リハ職種・義肢装具士科・整形靴学科に於ては、学生の就職支援として企業説明会を学内で実施している。	3.5		●全ての学科において、本学で学ぶ目的・目標を学生だけでなく、保護者の協力なくては達成できない。常に双方の意見交換は大切と考える(正木) ●今年に限り、就職説明会などが行われていない可能性があり、求人率も低いと考えられるので、サポートを十分に行ってください(川端)
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3		退学防止のために入学前から学生一人ひとりを見ることに重点を置き学生の諸問題の早期発見と学習面、生活面のサポート体制を整備している。	滋慶学園グループが独自に開発整備した学生サポートアンケートを実施し、問題を持つ学生を早期に発見し対応することで中途退学防止へつなげている。滋慶学園グループは独自のカウンセリング研修を設けており、全教職員がカウンセリングマインドを持って、学生に対応できるように研修を受け、資格を取得している。	3.67		●コロナウイルスに対しての不安が強い中、学外実習に出るにあたって、感染対策・予防に関する授業・指導をしっかり時間をかけて行ってほしいと思います(中村) ●全体のDO率が2019年度は大幅に改善されています。メンタル面のフォローやサポート体制がしっかり構築されている証でしょう。今年度は新型コロナウイルスの影響で今後さらに経済的に苦しくなる生徒も増えるかと思えます。奨学金やローンなど十分に活用されれば…と願います(川崎) ●自立した生活・目標をくり返し問う日常、心強くあってほしい。支援体制を積極的に活用できるよう、お願いします(田中)
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4		スチューデントサービスセンターを設置し、メンタル面・経済的な問題・健康面などの相談を各所で受け入れる体制を整備し、有効に機能させている。日常的には学内の専門カウンセラー(顧問)と教職員がチームとしてアプローチし、問題の解決にあたっている。	また、教員では対応できないような事象については、カウンセラーの配置と近隣の心療内科と連携をしており、緊急事態においても対応できるようにしている。学生問題の多様性、個別性によるより一層の教員研修の必要性を感じている(合理的配慮等)			
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか							
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4		学生の経済的側面の支援は、研修を受けた職員を配置、事務局による個別相談の実施によって、事前に学費相談を受け奨学金や学生ローン等をアドバイスしている。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金など完備している。健康診断をはじめ、環境衛生委員会を中心に、感染予防にも努めている。	3.5		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか			健康面、生活環境支援では、日常的に担任による欠席の把握、学生相談での聞き取り、健康診断後の再検査の必要性の周知している。いずれも担任と連携を取り、学生の変化に気を配り注意している。	寮長との連携の下、情報交換を行っている。学生の事故及び問題に関しても、インシデントと捉え原因の分析・予防対策を考えている。			
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか							
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか							
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4		本校のミッションである職業人教育や就職、また学生の資格取得実現のためには学校だけでなく家庭を中心とした学校外での学生動向も把握するように努め、問題解決にあたり、保護者との連携の強化を図っている。	学内での状況を一番把握しているクラス担任を中心に保護者への連絡や報告、相談を密に行える体制・雰囲気を作るために入学前の学校説明会や入学式後に学校代表、学科代表、教職員に紹介などの場を設けている。	3.67		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	4		各学科の同窓会委員を中心に、実施している。同窓会役員が主体となり学校側が支援する体制を整えている。	多職種連携ができるような学科を超えた、同窓会活動をめざす。卒業生・業界対象の講演会、研修会、勉強会が行われている。	3.83		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか								
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか								
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備教育用具を整備しているか	4		実習においては、実際の現場で使われている設備を備えていることが不可欠である。実学教育に力を入れている本校の設備、施設はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	各学科とも、厚生労働省指定養成施設基準を満たしている。(リハビリテーション系学科は第3者評価を受けている。義肢装具士科はカテゴリー I 認定)	3.67		●問題ありません(正木) ●十分である(川端)

項目	点検項目	評価		自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1				出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1		
6 教育環境	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4		授業の一貫として学外実習を実施しており、実習先との打ち合わせから学生の実習前教育、報告会、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化しており、実施体制は整備されている。また、海外研修を実施しており、建学の理念である「国際教育」を実践している。	海外研修先 オーストラリア:ラトローブ大学 香港:香港理工科大学 アメリカ:サウスウエスタン大学 ドイツ・オーストリア	3.83		●学生のうちから海外に目を向け、触れておくことは大切であると思う(正木) ●コロナウィルスの関係で海外研修に対する不安がある中で、どう保護者を納得させることができるか。研修に行くのであれば、しっかりと対策をする。行けないのであれば、海外研修の代わりに国際教育をどう実践していくのか、悩ましい問題だと思います(中村) ●海外での研修は、非日常の体験ともなり、貴重な成果となりますね。視野を広げる、ちがいを知るとい意味は、かえがたいと思います(田中)
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4		防災体制については、防火管理責任者を配置し、消防署の指導による年1回の防災計画作成と防災訓練を実施している。また、災害時に備え、学生、教職員の安否をメールで確認システムも構築している。	AEDの設置:毎月1回の定期点検を実施している。 救急救命士科教員、学生による他学科学生への研修会の開催。	3.83		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4						
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4		本校は兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期、募集内容を遵守している。また、学校案内・募集要項をはじめとする資料、ホームページにおいても遵守したのものとなっている。	説明会への参加は、複数回参加を促し、疑問がきちんと解消できるよう仕組みを構築している。また、早期出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるよう「オープンキャンパス(入学前教育)」を実施している。	3.83		●退学の原因であるミスマッチを防ぐことは、学校・学生双方にとってメリットがある(正木) ●高校卒業時に進路を見極める事は、難しい事だと考えます。十分な説明と対人支援の醍醐味を知る機会が重要です。十分な対応をお願いします(田中)
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか							
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4		学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は選考会議により合否を確定する。面談結果、書類内容、選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来業界で働くことに適正があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適正をきちんと見極めるため、面談の比重を多くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。また、AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、よりやる気を重視した学生確保にチャレンジしている			
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4		毎年、各学科において教科書、教材の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出がないかチェックしている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。			
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4		7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか				
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4		厳しいチェック及び評価が行われ、中長期的に財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができ、財務基盤の安定につながっている。	指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	4		●問題なく適切に運営されています(正木) ●5ヵ年計画に基づいた計画は、ゆるぎのないものと思いません。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、制約をうけた点などおありだったと思いますが、着実な運営を期待いたします(田中)
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか							
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4		5年を見越した収支計画も作成しているが、単年度予算についても学校、学園本部、理事会・評議員会でチェックしているので適正な執行管理になっているものと考えている。	予算→四半期予算実績対比→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。			
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4		監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の監事からの意見が述べられている。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。			
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4		財務情報公開の体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	当法人の財務情報公開に関しては、常務理事が統括し、事務局長が責任者として担当する。また、事務担当者置いて現場対応を行っている。 ＜公開書類＞ 1. 財産目録2. 貸借対照表3. 収支決算書4. 事業報告書5. 監査報告書			
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4							

項目	点検項目	評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			出席委員集計(平均点数) 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、整備されている。カリキュラムや教員要件はしっかりチェックし、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する研修を実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	4	●問題ありません(正木)
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	個人情報保護の体制はできている。個人情報保護の教職員への啓蒙として、年2回全教職員に対して研修を行っている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、ホームページ上に明記している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	自己評価・自己点検の結果、教育情報をホームページに掲載しており、情報公開は行っている。	下記HPアドレスにて情報公開している。 http://www.kmw.ac.jp/info/		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか					
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか					
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	職業教育を通して社会に貢献することが我々の使命であるが、卒業生や在校生本人のみならず、彼らを取り巻く社会環境や業界、さらには学校が存在する地域の信頼を得ながら、その役割を果たしてゆく。またキャリア教育の一環として挨拶の仕方、服装、髪型、言葉遣い等の指導を受け、ボランティアに参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・三田市障害福祉課、社会福祉協議会主催の認知予防教室、介護予防教室、障害者生活指導等の協力(理学療法士科・作業療法士科・言語聴覚士科) ・三田市社会福祉協議会主催「ともいき三田」へのボランティア参加 ・三田市内中高生・保育園、保育士に対する心肺蘇生法講習会(救急救命士科) ・義肢装具士科学生クラブによる、中古義足を整備し発展途上国へ送るボランティア活動 ・ISPO世界大会への参加(三田校全教職員・在校生) 兵庫県専修学校各種学校協会主催による「トキメキ仕事体験」事業にて高校生のキャリア教育支援を実施 ・学校掲示板利用による、地域、施設ボランティアの促進 	3.83	<ul style="list-style-type: none"> ●学校が所在する三田市における社会貢献は、地域からの支援も受けやすくなる。Win-Winな関係は大切である(正木) ●地域との連携を図り、様々な行事に参加できており、社会に出てから役に立つ経験となっていると思います(中村) ●ISPO世界大会での(生徒さん達)ボランティア活動、先生方により手作りマスクの寄付など、その時々状況に応じて、社会や地域に貢献されていることが素晴らしいです(川崎) ●三田市内での活動の中も広められ、活躍されていることに敬意を持っています。また、世界レベルの大会にも県内のイベント等への支援にも協力されていて、益々人材育成への取組に賛同いたします(田中)
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか					